



いつもユネクスEFをご使用頂き誠に有難うございます。
 本年もよろしくお願いいたします。
 FMD News Vol.3 をお届けいたします。
 弊社 **facebook** も引き続きよろしくお願いいたします。

1月のTOPICS

今回は、FMD多施設共同研究での研究内容をお伝えいたします。
 FMD多施設共同研究は、動脈硬化性心血管疾患診療指標としてFMDの有用性の確立を研究課題とした多施設共同の臨床研究です。

■ FMD多施設共同研究におけるFMDと心血管リスクの関係

この研究は日本の3つの総合病院で2010年4月1日から2012年8月31日までに健康診断を受けた方々より5314名の成人を対象とし、FMDと各危険因子との関係、脳心血管疾患有病率との関係を調査することを目的として行われました。

この研究のFMD測定には弊社のユネクスイーエフが用いられ、前腕駆血によって評価されました。

引用元：<http://heart.bmj.com/content/suppl/2013/10/23/heartjnl-2013-304739.DC1.html>

図1：フラミンガムリスクスコアとFMD値は有意な逆相関関係にありました。

図2：年齢を6つのグループに分類したFMD値を示しています。
 FMDは40歳代までは女性の方が男性より有意に高値を示しますが、閉経後は男性と同レベルとなります。

図3：FMDの4分位と心血管危険因子の有病率を示しています。
 FMDは低値になるに従い各危険因子有病率は高率となっています。

図4：FMDの4分位と脳心血管有病率を示しています。
 FMDは低値になるに従い脳心血管有病率は高率となっています。

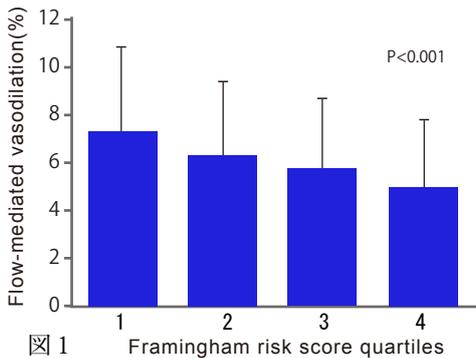


図1

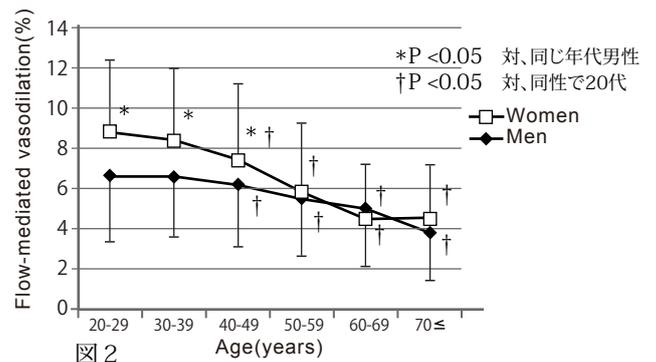


図2

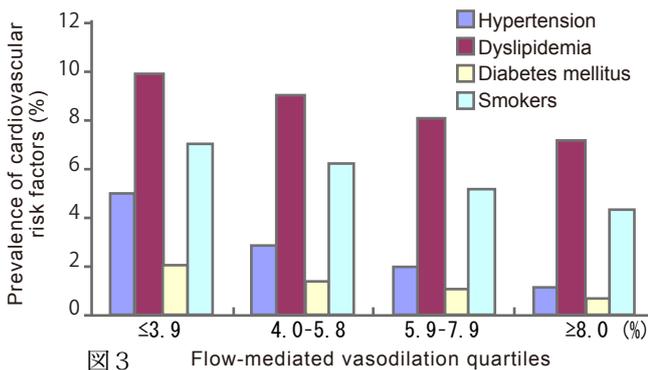


図3

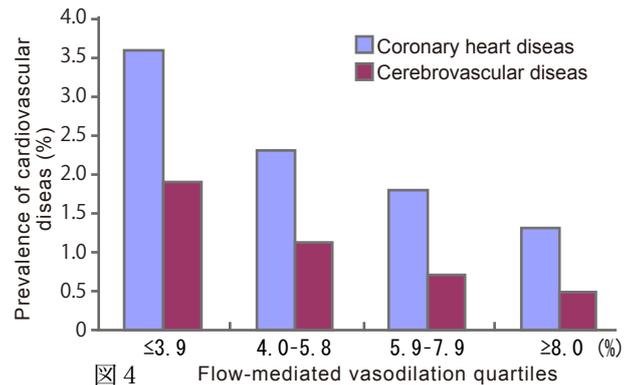


図4